
平成 2 5 年大和町議会決算特別委員会会議録（第 5 号）

平成 2 5 年 9 月 1 3 日（金曜日）

応招委員（ 1 8 名）

委 員 長	伊 藤 勝 君	委 員	藤 巻 博 史 君
副委員長	中 川 久 男 君	委 員	松 川 利 充 君
委 員	今 野 善 行 君	委 員	平 渡 高 志 君
委 員	浅 野 俊 彦 君	委 員	堀 籠 英 雄 君
委 員	千 坂 裕 春 君	委 員	高 平 聡 雄 君
委 員	渡 辺 良 雄 君	委 員	馬 場 久 雄 君
委 員	松 浦 隆 夫 君	委 員	大 崎 勝 治 君
委 員	門 間 浩 宇 君	委 員	堀 籠 日出子 君
委 員	槻 田 雅 之 君	委 員	大須賀 啓 君

出席委員（１８名）

委員長	伊藤 勝 君	委員	藤 巻 博 史 君
副委員長	中 川 久 男 君	委員	松 川 利 充 君
委員	今 野 善 行 君	委員	平 渡 高 志 君
委員	浅 野 俊 彦 君	委員	堀 籠 英 雄 君
委員	千 坂 裕 春 君	委員	高 平 聡 雄 君
委員	渡 辺 良 雄 君	委員	馬 場 久 雄 君
委員	松 浦 隆 夫 君	委員	大 崎 勝 治 君
委員	門 間 浩 宇 君	委員	堀 籠 日 出 子 君
委員	槻 田 雅 之 君	委員	大須賀 啓 君

欠席委員（なし）

説明のため出席した者の職氏名

町 長	浅 野 元 君	保健福祉課長	三 浦 伸 博 君
副 町 長	遠 藤 幸 則 君	産業振興課長	浅 井 茂 君
教 育 長	上 野 忠 弘 君	都市建設課長	大 畑 憲 治 君
代表監査委員	渡 邊 仁 君	上下水道課長	堀 籠 清 君
総 務 課 長	伊 藤 眞 也 君	会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	藤 原 敏 明 君
まちづくり 政 策 課 長	千 葉 恵 右 君	教育総務課長	菅 原 敏 彦 君
財 政 課 長	八 島 勇 幸 君	生涯学習課長	石 川 誠 君
税 務 課 長	千 葉 良 紀 君	総 務 課 危機対策室長	瀬 戸 正 志 君
町民生活課長	長 谷 勝 君	産 業 振 興 課 農 林 振 興 対 策 官	石 垣 敏 行 君
子 育 て 支 援 課 長	高 橋 正 春 君	税 務 課 徴収対策室長	千 葉 喜 一 君

事務局出席者

議会事務局長	浅 野 喜 高	主 事	曾 根 秀 子
議 事 班 長	千 坂 俊 範	主 事	逢 坂 孝 徳

議事日程〔別 紙〕

本日の会議に付した事件〔日程と同じ〕

委 員 長 （伊藤 勝君）

皆さん、こんにちは。

ただいまから本日の会議を開きます。

これより、監査委員報告について質疑を行います。質疑ありませんか。

「なし」と呼ぶ者あり

ないようですから、これで監査委員報告については質疑を終わります。

続きまして、代表質疑を行います。

代表質疑は、総務常任委員会、社会文教常任委員会、産業建設常任委員会の順に行います。

初めに、総務委員会を代表して高平聡雄委員。

高平聡雄委員

それでは、総務常任委員会からお尋ねをいたします。

まず文書広報費のうち例規集の加除についてということで、適正に例規集加除を行い、適正な法令図書に管理に努めたというふうに成果を述べておられますが、その費用対効果はいかなるものかということでお尋ねをいたします。

続きまして、財産管理費の中の新公会計制度に基づく財務諸表の活用についてということでお尋ねをいたします。

町の資産や債務の情報、コスト情報を把握し、今後の財政運営に資するため、財務諸表を作成したとありますが、各課等の適正な維持管理を図る上でも、各課等の施設台帳管理に有効に活用すべきと思いますが、町長の所見をお尋ねするものです。

以上です。

委 員 長 （伊藤 勝君）

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

それでは、高平委員のご質問でございますが、1 件目、例規集の件でございます。

例規集につきましては、各定例会におきまして可決いただきました新規条例及び一部改正条例並びに議会の議決を要しない規則、規定の改正等を含めまして、次の定例

会に合わせて加除整理をしておるところでございます。

例規集は、紙ベースのものが議員皆さんの分と職員分を合わせまして51組、そのほかホームページと職員の端末で最新のデータを見ることができるよう、改正した都度、それぞれ加除及び電子データの更新を行っております。

例規集は、町の事務事業を進めていく上での最高規範でありまして、改正する際には、細心の注意を払い、加除等につきましては、専門の業者に委託しているところでございます。

次に、加除及び電子データの更新に要する費用でございますが、加除につきましては1ページ当たり1,000円、電子データの更新は1ページ当たり3,000円の単価契約を行っておりまして、平成24年度には1,249ページで524万5,000円、平成23年度は460ページで193万2,000円の決算額となっております。平成24年度分が大幅にふえた理由につきましては、国におきまして、地域主権一括法による200超える法律が改正されたことによりまして、関連する条例等の改正を平成25年3月までに行う必要があり、例年と比較しますと大幅に増加したことによるものでございます。

例規集加除の費用対効果という質問でございますが、業務の特殊性から委託業者が限られておりまして、県内の他市町村の状況を見ましても、当町とほぼ同様の経費となっておりますので、妥当な金額と考えております。

一方で、各課に配置している紙ベースの例規集につきましては、職員の端末で例規集を見ることができる状況になっていることから、職員の利用につきましては大幅に減っている状況にありますが、議場での審議や、また法令審査においては必要でありますことから、当面は現状で形態を維持していきたいと考えております。

今後の例規集のあり方につきましては、現在、議会活性化調査特別委員会で、議場における情報通信機器の活用に関して検討されていると聞いておりますので、その検討経過を注視してまいりたいと考えております。

次に、新会計制度に基づきます財務諸表の活用に関するご質問でございます。

新会計制度につきましては、現在、国や地方公共団体で実施されております単式簿記によります現金主義会計を、企業会計などで実施の複式簿記による発生主義会計で決算及び資産を把握するものでございます。

大和町では、平成21年度から緊急雇用創出事業を活用いたしまして、最先端である基準モデル方式での構築を図っております。これは、国の総務省の指導によって行われておりまして、その目的につきましては、財政の効率化、適正化のため、内部マネジメントに活用することと、住民への説明責任を果たすことの大きな目的を持ってお

ります。その内容につきましては、財務4表と呼ばれております貸借対照表の普通会計と連結会計及び町民1人当たりのそれぞれの費用作成と固定資産台帳作成が主な内容でございます。全国でも基準モデル方式での導入自治体は少ない状況でありまして、国におきましては、この平均値の公表は実施していないため、全国公表団体39団体によります本町との比較を行っておりますが、この分析によりまして、おおむね平均値を上回る数値となっておりますところでございます。

なお、固定資産台帳につきましては、1件ごとの減価償却を定額法で償却しておりますが、これは企業会計のような減価償却分を内部留保資金として積み立てるものではなく、議員発言のとおり、資産の老朽化度合いの把握や修繕等への内部マネジメントが主な目的であると考えられます。つきましては、過去10年間の修繕履歴等とともに、このデータを施設管理所管各課にフィードバックいたしまして、26年度当初予算での活用を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

委員長（伊藤 勝君）

高平聡雄委員。

高平聡雄委員

それでは、例規集のことについて再度お尋ねをします。

現在は電子データと紙データの並立を維持していると。今後も当面の間はそういうことで行いたいというご発言でありましたけれども、ここにあえて費用対効果というお話を申し上げましたけれども、現実の姿は、もうほぼ図書については、利用が全体のそれこそごくごく限られたところでの活用になっているのではないかというふうに私自身は感じております。果たしてこのまま紙ベースのものを維持することが必要なのであろうかと。

事前のご説明によりまして、ページ単価が4,000円というようなお話がありましたが、今の町長の改めてのご答弁を聞きますと、電子データで3,000円で紙ベースで1,000円というようなことでありますが、いずれにつけてもこの紙ベースの1,000円、価値観としていかなものかというふうに感じております。

特に図書として存続をするのであれば、現在電子データとして既に運用しているものと当然内容が同じなわけありますので、外部委託に頼らず、自前で一部加除等も行うことも可能なのではないかというふうに私は感じております。必ずしも専門業者

に毎回、その内容の量にもよると思いますけれども、基本的な年度内の例規集の一般的な加除については、電子データの中で、担当課職員の中で、その改正等については対応できるのではないかとということもあわせて、過渡期といいますか、検討すべきだろうと。

それと、議会として今検討中の機器の方向性を見定めたいというようなお話もございましたが、これは議会だけのそのものの利用だとかということではありませんし、システムの構築上はごく一部分の検討でしかないというふうに思いますので、町全体のシステムの中でこういったものが位置づけられるのかということ、執行部としては十分に見きわめる必要があるだろうと。例えば議会にタブレット型の機器が用意されて、それに例規集がただのっかったということだけで、それでいいのかということも当然あるわけでありまして、今後のそういった機器の利用範囲、行政として使える、使えないということも含めて、執行部としても検討を早急に進めるべきではないかというふうに考えますので、あわせてお尋ねをいたします。

それと貸借対照表あるいは行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書、こういった財務4表と言われるものを作成するというのが、まずは今行っている公会計の主たる目的というか、それを議会あるいは町民に明らかにするためにそういった手法を取り入れているというのが、導入時の最大の目的だったというふうに理解しております。

しかし、これを重ねるごとに、重ねたデータというのは、先ほど町長のお話にもありましたように、内部データの蓄積ということで、いかに運営の中でその帳票を生かしていくかというふうに、やっぱりステージが変わってきているんだろうというふうに思うわけでありまして。ですから、今後も現在の運用の仕方そのことだけではなくて、今後どういう活用をすべきかということ、これを常に研鑽をしていかなければならないんだろうというふうに思っております。そのためには、庁舎内各課とのシステム構築、そういったものも当然視野に入ってくるだろうし、何のために管理しているのかと、データを管理しているのかという共通認識を、財政当局と各所管事務を行っている関係課と認識を同じくしていかなければならないというふうに感じております。

再三財政課当局のお話を伺いますと、これまでの積み重ねによって資産管理台帳等も十分に整備が整ってきているということでありまして。そのデータが有効に今後活用されるような動きにもう一步進むべきではないかということでお尋ねをいたします。

町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

まず1点目の例規集の加除関係でございますが、自前でというお話もございました。お話しのとおり、加除につきましては、今、図書のほうにつきましては、先ほども申しましたけれども大分使う場面が少ないといいますが、パソコン等で見る部分のほうが多くなっております。しかしながら、限られた場所ではありますけれども、議会とかまたは法令審査会とか、そういったところにつきましては、まだまだ今現在使っているということでございますので、今すぐ一遍に切りかえるということは、なかなか、次のやり方を考えていかなければいけないというふうに思っておりますが、方向性としては、ペーパーレスといいますが、そういったものにいくのが時代の流れといいますが、そういうことだというふうに思っております。

電子データになれば、自前での加除修正というのは、ある程度可能になってくるのかという気もいたしますが、まだまだ紙ベースですと、そこにつきましては正確性とか、151組の分についてそういった正確な部分について自前という、できないわけではないかもしれませんが、まだまだいろいろ研究が必要なのだろうと。データベースになれば、それが初めて可能になってくるんだろうなというふうな思いがございします。

そういった中で、タブレット等の利用ということでございますが、議会のほうで今、活性化委員会のほうでいろいろ検討いただいているということでございます。町のほうでも考えようということだというふうに思っておりますが、やっぱりこれは考えていかなければいけないというふうに思っております。お話しのとおり、今タブレットもし使った場合に、例規集だけでいいのかという問題、またそのタブレットを持ち込んだときにどういった利用をするのかという問題、そういったこともありますので、それは議会側で考える部分と我々が考える部分、両方あるというふうに思っております。先ほど議会の検討経過を注視してということでございますが、そういった情報もいただきながら、町としてはこういう形であるべきであろうというそういった考え方、基本的な考え方を整理していかなければいけないというふうに考えておるところでございます。

それから、財務諸表でございますが、平成21、22年とやってきているところでございます。まだスタートして3年、4年たっているのですが、実は決算が終わった後に、そのデータを会計事務所内にやりながらその新しいデータに切りかえるということで、

年度がちょうどもう少しかかってくるということで、今21、22年の部分があり、23年度分が間もなく来るというふうな感じになっています。データの積み重ね、そういう意味ではまだまだ足りないところがございますけれども、確実に積み重なっているのも事実でございます。そういった意味で、そのデータを利用してということで、先ほども申しましたが、資産管理とかには非常に役に立つ部分でもありますし、それを各課で共通の認識を持って、同じデータを持ちながら、その維持管理等に役立てていく必要というのは、これは大変大切なことだというふうに思っておりますし、そのとおりといいますか、そういった形で利活用していかなければいけないというふうに思っております。

この方式につきましては、総務省から言われた中で、まだまだ切りかえたところが少なく、他の自治体と比較するというまでのデータがまだまだ少ないのかなというふうな思いはございます。しかし、いずれ全国的にこれは変わっていくであろうデータでありますし、そうやってきたときに、また外部との比較をするといいますか、外部との違い、また町が台帳がおくれている部分、進んでいる部分、そういったものが見えてきて、そういった活用も幅広くなってくるというふうに思っておりますが、その外部の利用と同時に、先ほども申しました内部のデータにつきましては共有をしながら、予算等に図ってまいりたいと。

過去10年の修繕履歴等につきまして、調査をし、そういったものとあわせて、調査をしているところでございますが、そういったものとあわせながら利用して、よりよい効率的な町の運営に活用してまいりたいと、このように考えます。

委員長（伊藤 勝君）

高平聡雄委員。

高平聡雄委員

例規集の加除については、特段24年度、地域主権一括法の関係で、額が例年に対して3倍強の費用がかかったという特殊な事情はあるにせよ、基本的には一番の課題は、独占的企業によって占有されているということで、価格が固定化してしまっているということが大きな要因になっているというふうに私は理解をしております。こういった中で、それにかわる事業者が果たしていないものかどうか、この機会に改めて調査をいただいて、本来である適正な価格が、あるいは妥当な価格なのかという検証を改めてしていただきたいということを申し上げておきます。

また、データの管理については、今蓄積中で、今後はその活用について十分に検討していかれるというお話でございましたので、ぜひ、何度も繰り返しになるかもしれませんが、財政当局の資料としての確保ということだけでは、全く意味をなしませんので、どこでそのデータを管理するかということが最も重要な、管理ということは、それに常に気を配り、そのことによって事業を計画していくということでありますので、そのシステム構築について、なお特段の努力を求めて、私の代表質疑とさせていただきます。ありがとうございます。

委員長（伊藤 勝君）

続きまして、社会文教常任委員会を代表して、3番千坂裕春委員。

千坂裕春委員

社会文教常任委員の代表質疑を始めたいと思います。

一番最初、教育委員会の体制は万全か。

病気療養により1年以上欠席状態が続いているが、委員会の合議について支障を来していないか。

2、後期高齢者医療費の抑制について。

年々医療費が増加している中で、大和町独自の施策を実施することにより、医療費の抑制を図ってはどうか。

3、安心コールセンターサービス事業の検討。

事業実施から13年が経過しているが、現在は技術革新が進み、より効果的な機器も開発されており、費用対効果を考慮して、現行のものとの比較検討をしてはどうか。

以上3点です。

委員長（伊藤 勝君）

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町 長（浅野 元君）

それでは、ただいまの質問ですが、まず、町の教育委員会委員の任命につきましては、定数であります5名の教育委員にお願いしておるところです。お引き受けいただいた教育委員5名により教育委員会体制といたし、合議制の中で組織運営に当たっていただいておりますが、現在、委員長が病気療養をなされております。一日も早いご

回復を願っておるところでございます。

また、町の教育委員会の運営でございますが、当委員会の組織運営に当たりましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第12条第4項の規定によりまして、あらかじめ教育委員会の指定する委員が、その職務を行うことになります。このことから、委員長病気療養中のこの間におけます委員長職務につきましては、委員長職務代行者におきまして、会議を主催していただくほか職務代行者としての責務を誠実にお務めいただいております。教育委員会の定例会議を初め、県、仙台管内及び郡内の各教育委員会へのご出席のほか各種行事につきましても、委員会を代表され、その職務を精力的に果たされております。

そして、町教育委員会の体制にありまして、合議体としての教育委員会の決定により行われ、また、教育委員会の指揮監督のもとに、その権限に属する全ての事務をつかさどる教育長におきましても、委員会決定での全ての事務の執行について適正に果たされてきておる状況でありまして、職務代行者のもと、教育委員会等委員会運営を適切にお務めいただいているものと考えております。

次に、後期高齢者の医療費抑制に関するご質問ですが、後期高齢者医療制度につきましては、75歳、一定の障害があると認められたときには65歳でございますが、75歳以上の方が加入する高齢者の医療保険制度でございます。都道府県単位で設置されております後期高齢者医療広域連合が保険者となりまして、市町村と協力して運営をしているものでございます。

町は、構成市町村としまして、保険者である広域連合に対して、医療保険事業に必要な療養給付費、共通経費、保険基盤安定負担金、事務費を納付しておりますが、納付額につきましては、20年度で1億6,919万8,085円、21年度で1億8,890万3,502円、22年度で1億9,435万3,856円、23年度で2億150万4,507円となりまして、確実に増加している状況でございます。被保険者が伸びている状況もございます。

広域連合としての抑止施策につきましては、医療機関からのレセプト点検によります不正請求抑止、また医療費適正化の観点から、医療費通知によります被保険者の健康に対する意識の高揚、健康診査事業によります生活習慣病などの早期発見、歯科検診事業によります口腔ケアの実施、パンフレットなどを用いた啓発事業を実施しております。さらに今年度より、ジェネリック医薬品差額通知事業を実施することになっております。

町としての独自の取り組みといたしましては、この医療制度の中での分担する事業が、主に窓口事業となることから、限られた施策となるものでございます。平成24年

度からは、ジェネリック医薬品希望カードを被保険者証の更新の際に同封して送付いたしております。これは、医師、薬剤師へ提示をしていただき、ジェネリック医薬品を希望していることを意思表示していただくものでございます。また、今年度は、重複受診についてのチラシを町独自に作成しまして、重複受診のデメリットについて詳しく説明を行ったものでございます。

今後の町の独自の取り組みといたしましては、啓発を中心とした活動を積み重ねることになります。日常生活の中でできる対策の実践をしていただくことでございまして、一つには、時間外受診や急診受診はなるべく避けること、2番目には、かかりつけ医を持ち、指示を守ること、3番目には、薬をたくさん欲しがらないことなど、これらのことのPRに努めるものでございます。その結果として、医療費の抑制につなげることを目的とするものでございます。

今後も広域連合と連携しながら、医療費抑制に努めるものでありまして、高齢化が進む中で安心して医療を受けられるよう配慮するものでございます。

次に、安心コールセンターサービスの事業でございますが、本町では、従来からひとり暮らしの高齢者を対象としまして、緊急時通報受信のみのひとり暮らしの老人等緊急通報システム事業を実施してまいりましたが、介護保険制度の円滑な実施の観点から、被保険者が要介護状態等となることを予防するとともに、地域において、自立した日常生活を営むことができるよう支援するために、平成18年4月に介護保険制度が改正され、市町村が支援を行う地域支援事業として、新たに家庭内の事故等への対応の体制整備に資する事業を実施することになったところでございます。

本町におきましても、介護保険制度の改正によりまして、町内に住所を有する65歳以上の高齢者のうち、要介護認定を受けている高齢者及び何らかの支援が必要な高齢者単独世帯並びに高齢者のみ世帯の家庭内における事故等を防止するための取り組みといたしまして、地域自立生活支援ネットワーク事業安心コールセンター事業を実施しているところでございます。

安心コールセンター事業につきましては、国で示します要件の24時間365日電話を受け付け、適切なアセスメントを行う専門的知識を有するオペレーターの配置等を行いまして、緊急時の通報受信に加え、日常においてもさまざまな相談等の対応、さらにはコールセンターから利用者への安否確認のサービス提供を行いました。日常生活に安心感と住みなれた地域での自立した生活を支援する事業としまして、業務委託契約により実施しているところでございます。現業務委託契約者につきましては、平成24年4月1日から平成27年3月末までの委託契約期間となっております。

町といたしましても、現契約期間終了後には、新たな業務委託契約を締結しなければなりませんので、国で示す補助対象要件及び業務委託仕様内容を精査の上、詳細に明示をし、業務受託に参加いただける事業者からご提案等をいただくことになり、関係法令にのっとって業務委託契約を締結してまいりたいと考えます。

以上です。

委員長（伊藤 勝君）

千坂裕春委員。

千坂裕春委員

まず最初に、教育委員会の体制なんですけれども、実は私、昨日、県の教育庁総務課を訪ねて見解を聞きに行ったのですけれども、もちろん県としても市町村の教育委員会を指導する立場ではないというただし書きでその方の意見を頂戴したところ、やはり合議制の問題から、余りいい状態ではないというような意見をいただきまして、早急に体制が整うような努力をされたいかがですかということ、話を聞いてきました。また、この病気療養されている方の回復は、一日も早くということを望まれますが、何日をめどにというようなものが出ているのかお聞きします。

それと、この合議制の大事なところは、我々議員が同意するときに、今の構成メンバーはどうなのかということ、考慮した上での同意ということ、前提としてまいりますので、その辺のところの疑問も残るところでございます。

2番、後期高齢者医療の抑制についてなんですけれども、さまざまな取り組みをされておりますが、大変難しい問題だと私も承知しております。そういった中、昨年9月の定例議会において、渡辺議員のほうで介護支援ボランティアの創設の導入を町長のほうに提案されていまして。その中で、今後も検討するというような答弁があったみたいなんですけれども、そちらの動きは現在どうなっているのかお聞かせください。

安心コールセンターサービス事業の検討なんですけれども、先ほどの27年度終了時点で新たなものを考えるということの答弁で、なるほどなとは思いました。こういった安心コールサービスというのは、ひとり暮らしの老人または老人世帯の方にすごく重要なものである、より効果的なものを導入してはと考えております。基本はこういったひとり暮らしとか老人世帯をなくすことが一番かと思いますが、こういった方々のいろいろな理由を考慮した上で、効果的なものの導入を希望します。

以上です。

委員長（伊藤 勝君）

町長浅野 元君。

町 長（浅野 元君）

ただいまのご質問でございますが、どのくらいをめどにといいますか、ということでございますけれども、それについてはいろいろな考え方があるかというふうに思っております。現在リハビリをやられて努力されているところでもございますので、できるだけ早く回復をしてもらいたいというのはもちろんでございますので、それが第一だというふうに思っております。

ただ、運営についてのそういった支障とかそういったものは、現在はない状況だと申し上げました。そういった中ではございますけれども、全員がそろっておられるということはもちろんベストでございますので、そういった体制になるように努力してまいりたいというふうに思っておりますし、役職につきましても、いろいろな立場があるわけでございますけれども、そういったものの考え方も含めて考えていかなければいけないというふうに思います。

それから、介護支援のボランティアということでございますが、介護支援のボランティアについてのご質問についてということでございました。介護支援につきましては、今ご存じのとおり、町のほうで保健課が中心になってやっているところでございます。地域包括支援センターとか、またはさまざまな介護施設とか、そういったものと協働で今やっているところでございます。そういった中でやっているところでございますので、その中のご意見を聞きながら進めていかなければいけない部分もあろうというふうに思います。

ボランティアという形での、これはまた渡辺委員の話とまた違う話ですが、ご協力いただくということは大切なことだというふうに思っておりますが、例えば、今、大和町では、75歳以上の方々のいきいきサロンとかもやっております。こういった中で、これは大和町の非常に独特的なもので、皆様のご協力をいただきながらやっておりますけれども、これを運営するのは、地域の区長さん初め役員の方々、あと婦人会の方々、ボランティアの方々とございます。こういった方々が、いろいろな工夫をしながら、そういった元気な老人をますます元気にする、またはいろいろな話し相手をする、そういった形でご協力をいただきながらやっています。これも一つのボランティア活動にはなっているというふうに思っております。そういったこともありますし、

また、地域で、ご本人たちの話になりますけれども、ボランティアの協力をいただきながら健康貯筋友の会とか、ああいったこともボランティアのご協力をいただきながらやっているということでございますから、そういった意味では既にそういうことがある程度なされているんだろうなと。これで満足ということではないにせよ、そういった状況にあるというふうに思っております。

それから、コールセンターでございますが、より効果的な、そのとおりだというふうに思います。それでコールセンターにつきましても、ご承知のとおり24時間体制での受け付けはもちろんでございますけれども、何かあった場合にはご本人に連絡をする、そうでない場合には見守り隊の方に連絡するとか、そういったさまざまな用途があってやるわけでございますから、そういったものを含めての受託といいますか、そういったことになってまいります。いろいろ今、携帯とかでもいろいろな装置のあるものもありますが、そういったものプラスアルファの部分もございますので、そういったことも見ながら、見ながら、そういったこともきちっとやってもらえる、またプラスできるというような中で、安心できる業者さんを選択していくということにつきましても、これまでもやっておりますが、なお今年度で今回も終わるわけでございますけれども、契約期間ですね。切りかえの段階では、さらにそういったものも含めて業者さんの選択といいますか、やっていかなければいけないというふうに考えます。

以上です。

委員長（伊藤 勝君）

千坂裕春委員。

千坂裕春委員

教育委員会の体制なんですけど、昨日も時間がないところで対応していただいたわけなんですけど、その中で担当の方がおっしゃっていたのは、今は職務代行で済むかもしれませんが、物によっては職務代行者ということでできないものがあるのではという意見もございました。私も突っ込んで聞けばよかったんですけど、最初に、時間が余りないのでと言われたので、ああそうでしたかということで終わったんですけど、そういったものを踏まえて、やはり早急な対応を望みます。

それと、後期高齢者医療の抑制なんですけど、渡辺議員が言っていた介護ボランティア制度のものは、まだ実際的には検討がないようでしたので、こちらのほうも検討していくという答弁でしたので、よろしくお願いします。

安心コールは、先ほどの答弁でそうかなと思いましたので、この２点お願いします。

委員長（伊藤 勝君）

町長浅野 元君。

町 長（浅野 元君）

職務代行でできないことというのは、ちょっと私もよくわからない、わからないと
いいですか、基本的には職務代行ですから、委員長不在のときにはその代行でという
ふうに考えます。職務代行でできないことというのは、その内容については承知し
ておりませんが、ただ、この委員長職というのは、毎年の選任になります。任期が１
年になります。今９月ですが、９月で任期満了ということでございますので、その段
階で、これは私が申し上げるものではございませんけれども、教育委員会のほうでい
ろいろな検討がなされるのではないかとこのように思います。

それから、介護ボランティアということでございますが、これは渡辺議員さんのご
質問にもお答えしたということでございまして、そういったものについて、いろいろ
研究してまいりたいというふうに思います。

委員長（伊藤 勝君）

続きまして、産業建設常任委員会代表、６番門間浩宇委員。

門間浩宇委員

それでは、産業建設常任委員会を代表いたしまして、３件についてご質問をさせて
いただきます。

まず１点目は、人・農地プランについてであります。

平成25年１月、ことしの１月、全農家を対象にアンケート調査を行いました。そ
の結果。さらには今後のプラン策定に向けた具体的な取り組みについてお伺いをいた
したいと思います。

２点目、町道の維持管理についてというふうなことで、生活に直結する道路の維持
管理に努め、安全で快適な道路環境の保全が図られたとありますが、いまだに道路、
側溝を含め、傷みの激しい部分があり、修繕されていない箇所があるように見受けら
れます。早急な修繕をするべきだと思うのですが、その辺のところの所見をお伺いいた
します。

3点目、公共下水道の水洗化率の向上対策はどのようにしているのかというふうな部分であります。

今年度の決算では、水洗化率のポイントが86.2%というふうになってございます。平成18年度は83.7%、実に6年、7年ぐらいで2.5ポイントのアップしかされていないというふうなことでございます。年間、1年にすれば1ポイント以下のコンマ4ポイントかコンマ5ポイント、伸びたときに恐らくコンマ5ポイント程度であろうというふうに思われます。その辺のところを、今後水洗化率を向上させていくための方策がありましたら、お聞かせ願いたいと思います。

以上でございます。

委員長（伊藤 勝君）

答弁を求めます。町長浅野 元君。

町 長（浅野 元君）

それでは、ただいまのご質問でございますが、人・農地プランのアンケートの結果ということでしたが、説明会の結果というご質問というふうに受け取っておりましたので、あべとべの話というか、食い違うところがあるかもしれません。失礼しました。

人・農地プランの説明会の結果ということでございますけれども、そのことにつきましては、旧町村単位で9月3日から始めまして、きのうで吉岡地区終了したところでございます。内容的には、制度の説明とともに各集落間での人・農地プランの素案づくりをお願いしたところでございまして、その折の説明会では、24年度から既に始まっていたこの制度への取り組みへのおくれの指摘もございましたし、また、農業の先行きの見えない現状下においてのプランをつくって、つくったとしても明るい展望が見えてくるのかというようなご意見もあったところでございます。制度の本質や必要性につきましては、おおむね理解を得たものと考えております。

次に、プラン策定に向けた具体的な取り組みについてでございますけれども、各集落におけました現状と将来の5年後、10年後のあり方を話し合っていたきまして、プランの素案につきましては、これはこちらで原則ということで限ったわけではないのですが、10月末を目標に作成していただくように説明をいたしております。素案を受けまして、農地1筆ごとの確認や形態ごとの農地の図化の作業を進めまして、旧町村ごとのプラン原案として取りまとめ、集落で再確認をしていただきたいというふうに考えております。その後、検討会での審査の上、正式なプランとして決定してい

たいと考えます。

それから、2番目に移らせていただきます。

町道維持管理でございますけれども、町道につきましては、車両並びに歩行者の通行が円滑にできるように適切な維持管理に努めているところでございます。舗装のひび割れ、小さな穴等につきましては、特に春先の雪解けのとき、また、雨上がりにおいて多く見受けられますが、随時パトロールを実施して、適時的確に応急的な修復を行っております。応急処理だけでは対応できない場合には、数力所まとめて舗装修繕工事により発注し、適切な維持管理に努めております。

維持管理につきましては、道路パトロールや地区住民からの情報の提供をもとに、現地を確認しまして、逐次修繕を行っております。

側溝につきましては、勾配のふぐあいや破損状況等を確認して総合的に判断をして対応しております。

平成24年度の実績でございますけれども、側溝修繕につきましては3路線、延長549メートル、舗装修繕につきましても3路線、延長250メートルを修繕いたしました。そのほかにも災害関連がございましたが、小破修繕を30路線45カ所、延長760メートルを修繕し、さらには直営によります舗装修繕、穴埋め等でございますが、これにつきましては68日間、合材43トンを使っております。碎石につきましては27日、300立法を敷き散らしておるところでございます。

また、維持管理計画につきましては、地域の産業経済観光などを結ぶ路線と比較的交通量の少ない路線、生活道路の維持管理がございしますが、これらの計画につきましては、現在、平成29年度までの5カ年で18路線を整備する計画でございますが、それ以外のものにつきましては、国道、県道の整備状況、周辺の土地利用などを見ながら、緊急性、危険度や補助事業として採択できるかなどを総合的に勘案しまして、優先順位を決めて、計画的に整備を図ってまいりたいと考えております。

次に、水洗化率の向上対策でございます。

公共下水道につきましては、身近なところでは台所や風呂場、洗面所などの汚水を排除し、悪臭や害虫の発生を防止し、公衆衛生の向上に寄与するとともに、河川等の公共用水域の水質汚濁防止と保全及び水資源の有効活用を図る非常に公共、公益性の高い施設でございます。また、水洗トイレの普及によりまして、生活環境の改善を図るといった重要な役割を兼ね備えたライフラインとなっております。

公共下水道の整備には、多額の費用を要していることから、その効果を発揮するためには水洗化、いわゆる公共下水道への接続の向上が不可欠なものとなっております。

本町の公共下水道は、平成４年度の供用開始から20年余りを経過しております。その期間におけます水洗化率の推移でございますが、平成14年度までの10年間で80.0%と順調に普及が進み、その10年度の平成24年度末は86.2%と、伸び率が鈍化の傾向にございます。これまでの向上対策といたしましては、水環境フェア、下水道のPRでございますが環境フェアや広報紙によります普及促進を呼びかけてまいりました。供用開始時にはその効果もあり、急速な水洗化が見られましたが、近年におきましてはその伸びが鈍化している状況でございます。

このようなことを踏まえ、今年度より未接続世帯に対しまして、水洗化のチラシ配布や個別訪問をしながら水洗化普及向上の取り組みを行っておりまして、今後もこういった形の個別訪問等を引き続き進めてまいりたいと考えております。

以上です。

委員長（伊藤 勝君）

門間浩宇委員。

門間浩宇委員

まず、人・農地プランについてであります。説明会９月12日、きのうの吉岡で終わったというふうにお聞きしました。ご苦労さまでございました。

この人・農地プラン、実は24年の４月に、町のほうに農水省より来てございます。その辺は一般質問でも高平議員から出たところでありますが、今後、明るい展望が見えるのかというふうなこと、先ほど町長おっしゃいましたが、恐らくこれが農家の人たちにとっては率直な意見なのではないのかなというふうに思います。今現在でもどいういうふうな形にしていってほしいのか、例えば１町歩、２町歩つくっている方々にとっては、大変なご苦労もされていると思うし、それで農家の経営が成り立つわけでもございませんから、そういった意味では集団化なりプランをつくって、その集落の今後のことを考えていかなければいけないのではないかなというふうなことは、十二分にわかっているのですが、農家にとっては、石橋をたたいても渡らないというふうな方たちも結構いるんですね。ですから、執行部側、事務局側のほうにお願いしたいのは、一人一人にこういうふうな政策、こういうふうな団体をつくれば、集団をつくれば、こういうふうになりますよというふうに絵で描いて、極端な話です。絵で描いて、わかりやすく説明をしていって、その対策をとっていただきたいと思ひますし、今後検討会を開くというふうなことでした。そのことも踏まえて、事務局

サイドにはわかりやすくお願いをしたいと思います、その辺のところもよろしくお願いします。

それから、町道の維持管理ではございますが、優先順位をつけながらというふうなご回答でありましたが、同じところを2回というふうなところで待っているんですが、回らないところもありますし、特に補修のほうはそこそこ修繕はされているようでございますし、執行部側に対しては、御礼を申し上げなければいけないのかなというふうに思いますが、特におくれているのは側溝でございます。除雪の際に側道のほうに雪と同時に泥土も運び、そこに夏場なりますと草が堆積し、排水がうまくいかない、雨が降るというふうなことで、悪循環の繰り返しになっているというふうに思っております。それと、今後沿岸部の災害復旧の本格化に伴いまして、大型車両なども、特に通行が多くなってくるのではないのか、あるいはそういう地域も道路も出てこようかなと思っております。その辺のところを優先的に修繕していただきながら、さらには側溝の掃除とか清掃とかも、復旧をしていただきたいなというふうに思っております。

それには、執行部側で作業をするのではなく、逆にいえばその地域の人たちに、手法としてですが、地域の人たちにお願いをして、清掃なり除草作業とかもやっていただく。除草作業に関しては、今現在10何地区かでやられていると、委託をしているというふうに理解はしておりますが、側溝のほうの清掃もその辺のところ、手法としてそういったことも考えられるのではないのかなというふうに思っております。その辺のご見解をお聞かせ願いたいと思います。

公共下水道に関しては、町長ご答弁にあったように、いつときまでは一気に80%までは上がりました。その後、数ポイントずつというのは、やっぱり金銭的な部分もあるのかなというふうに理解はしてございますが、年々少しずつ上がってきている分に関しては、新しく町に入居された方々とか、新築をされた方々とか、そういった方々の接続でポイントが上がっているものと私は理解をしております。ですから、そうではなくて古くからこの町に住んでいらっしゃる、そういう方々の水洗化を助長してやれば、アップする率もある程度加速するのではないのかなというふうに思いますが、その辺のところのご見解を町長としてお聞かせ願えればというふうに思います。

委員長（伊藤 勝君）

町長浅野 元君。

町 長 （浅野 元君）

まず初めの人・農地プランの件でございますが、きのうまで説明会をさせていただきました。今後各部落で、地区地区といいますか、それぞれ集まっていた形が多分やられるというふうに思っております。そういったところに町が行って説明はもちろんさせてもらいたいというふうに思っておりますし、そういったきのうまでの説明の中でも、そういったことがあればいつでも言っていただけるようにというお話をさせてもらっております。そういった中で、丁寧な説明といいますか、具体の説明というか、そういうことだというふうに思っております。

なかなか字だけではわかりにくいということもあって、わかりやすい説明ということとで図式とかと、そういったこともあろうかというふうに思っておりますが、そういった工夫もしながらやっていければというふうに思います。

今回のプランにつきましては、前にもお話ししているところでございますが、変更可能なプランということでございます。現状が今あって、現状でできること、そして、今後その中で内容が変わった場合には、その変わった内容で変わった形で進めるということで、まず生産団体中心なる方があって、それに協力する方があって、今現状はよくわからない方があったというような、そういった言ってみればランクづけみたいなものがある、その中で２段階、３段階の方々についてはいろいろ出入りができるといいですか。ですから、アンケートの結果ということでさっきお話しあって、一般質問でもお答えしましたけれども、今現状はいいと。ただ、あと10年後は不安だと思いつつ、後継者についてはまだ考えていないというような方も多いです。そうしますと、その方につきましては、現状にいる形になります。ただ数年たったときに、やはりお願いしたほうがいいとなった場合には、参加するという形で動くというような形、そういったことも可能ということでございますので、そういったことも説明をしながら、これで決まって、これでもう決まりきったものではないというようなことも説明しながら進めていければというふうにも考えております。

なお、丁寧な説明、具体的な説明、そういったことはきちっとやっていきたいというふうに思います。

それから、道路整備につきましてでございますが、各地区でそういったご要望といいますか、私も聞いております。全部が一遍にできればということですが、なかなかできないということで、優先順位等を決めながらということで進めております。

今議員からご提案のありました除草とか、それと同じように地域の方に側溝の土砂払いといいますか、そういったこともということでございますが、そういったことを、

道路交通法の問題が何かあるかもわかりませんが、そういったご協力をいただければ、私は大変ありがたいなというふうには思います。ただ、専門的なことはわからないので、その辺は担当課ともいろいろ相談をしてみたいと思いますが、そういったご協力をいただいてやれるということであれば、それはそんなありがたいことはないのではないかと私は思っておるところでございますので、なお、その辺について打ち合わせといたしますか、確認をさせてもらいたいというふうに思います。

それから、下水道の接続ですが、おっしゃるとおり今ふえている部分につきましては、数%ふえているのにつきましては、新しく入ってきた方々の部分について接続があって、そのポイントが伸びているというふうに思っております。したがって、ある程度固定してといいますか、前からいる方の中でなかなか接続できないという方がある程度ある。その方に入ってもらえばアップしていくということで、そのとおりだというふうに思っております。そういうこともありまして、今年度から各戸を訪問して、一軒一軒状況を説明し、お願いをするという形で動き出したところでございます。

今接続していない方というのは、そのとおりある程度高齢化であったり、そういったことでもう私だけだからというふうな方もありましょうし、あとは借家関係ですね。そういったこともありますので、ある程度決まっているというか、そういうことがありますので、そういったことについては訪問をしながら、直接的なお話をさせていただいて、そして、ご協力をいただけるような努力をこれから重ねていかなければいけないというふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

以上です。

委員長（伊藤 勝君）

門間浩宇委員。

門間浩宇委員

今丁寧に町長からご返答をいただきました。そのラインに沿って、事務局、執行部側とご相談をしていただき、実行に移していただきたいと思いますし、住民にサービスをしていただければというふうに思います。

これで私の代表質疑のほうを終わります。

委員長（伊藤 勝君）

以上で代表質疑を終わります。

暫時休憩をします。

休憩の時間は10分間とします。

午後 2 時 3 1 分 休 憩

午後 2 時 3 9 分 再 開

委 員 長 （伊藤 勝君）

再開します。

休憩前に引き続き、会議を開きます。

これで決算特別委員会に付託された平成24年度の各種会計歳入歳出決算についての質疑を終わります。

お諮りします。

平成24年度の各種会計決算の認定については、討論を省略して採決したいと思えます。これにご異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり

異議なしと認めます。よって、平成24年度各種会計決算の認定については、討論を省略して採決をいたします。

お諮りします。

平成24年度各種会計決算の認定については、一括採決をしたいと思えます。賛成の方はご起立をお願いいたします。

〔賛成者起立〕

一括採決に反対者がありません。

一括採決は全員が賛成の場合のみ認められるものであり、反対される方がいる場合は、一括採決はできないことになっております。したがって、本特別委員会における平成24年度各種会計決算の認定につきましては、各会計ごとに採決することにいたします。

認定第 1 号 平成24年度大和町一般会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定をされました。

認定第 2 号 平成24年度大和町国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算の認定

について採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

認定第 3 号 平成24年度大和町介護保険事業勘定特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

認定第 4 号 平成24年度大和町宮床財産区特別会計歳入歳出決算の認定について採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

認定第 5 号 平成24年度大和町吉田財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

認定第 6 号 平成24年度大和町落合財産区特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

認定第 7 号 平成24年度大和町奨学事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

認定第 8 号 平成24年度大和町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立をお願いします。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

認定第9号 平成24年度大和町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

認定第10号 平成24年度大和町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立を願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

認定第11号 平成24年度大和町戸別合併処理浄化槽特別会計歳入歳出決算の認定についてを採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立を願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

認定第12号 平成24年度大和町水道事業会計歳入歳出決算の認定についてを採決いたします。

本決算は原案のとおり認定することに賛成の方は起立を願います。

〔賛成者起立〕

起立多数です。よって、本決算は認定されました。

これで本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。

大和町議会決算特別委員会を閉会します。

9月6日から本日まで、皆様には多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。おかげさまで無事決算特別委員会を終了することができました。大変ありがとうございました。

午後2時46分 閉 会